

# はしがき

世界経済モデルは世界経済における各国経済の成長と変動を数量的に分析するために利用され、貿易連関モデルにより各国間を相互に連結させることが可能となる。そのための基礎となるのが世界貿易マトリクスである。国際比較のためには世界貿易マトリクスは国・地域や商品分類等の分類カテゴリーに関して共通の分類基準を用いていることが必要である。ところが、国際機関で作成される統計ではそれらの基準が整合性を保っており、しかもそれを時系列で利用するとき分類の改訂や国の新生、分離あるいは統合のため連続性に問題がないとは必ずしもいえない。そうした問題を抱えているとはいえ世界経済モデルを利用するには世界貿易マトリクスの利用は避けて通るわけにはいかない。

アジア経済研究所で発足したプロジェクト研究の1つである「貿易指数の作成と応用（Ⅱ）」研究会は世界経済モデルの構築で重要な役割を演ずる貿易連関モデルを推定する問題をデータの側面から検討する一方、貿易指数を作成し国際比較、各国間の相互比較、世界の貿易指数と各国貿易指数との比較をおこなうことを課題として実施してきた。また、貿易指数における経済分析への応用として国際競争力との関係も含め、方法論のみならずいくつか実証研究をおこなってきた。

同研究会には主査として野田容助（NODA Yosuke：アジア経済研究所開発研究センター研究主幹）、幹事に黒子正人（KUROKO Masato：同マクロ経済分析グループ）が担当し、外部委員として、木下宗七（KINOSHITA Soshichi：椋山女学園大学現代マネジメント学部教授）、深尾

京司（FUKAO Kyoji：一橋大学経済研究所教授）、梶原弘和（KAJIWARA Hirokazu：拓殖大学国際開発学部教授）、内部委員として石戸光（ISHIDO Hikari：アジア経済研究所開発研究センター開発戦略研究グループ）、オブザーバは中村純（NAKAMURA Jun：同研究主幹）、福本真弓（FUKUMOTO Mayumi：同マクロ経済分析グループ）、海老原悦男（EBIHARA Etsuo：日本貿易振興機構企画部情報システム課主査）が参加した。

本書は本研究会で実施してきた世界貿易統計に関わるさまざまな課題を貿易指数の作成と評価とその結果をもとに東アジア諸国・地域の貿易構造を分析するという立場で取りまとめた成果の一部である。なお、本書作成において校正および編集についてはアジア経済研究所開発研究センターの平井令子氏に絶大なる協力を得たことを感謝し、付記する。

本書は貿易指数の作成と応用に限って検討しているが、この成果はまたより一般的な貿易統計を利用した貿易構造あるいは産業構造を考慮するさいにもいろいろな場面での示唆を与えるものになると思われる。

2005年3月

日本貿易振興機構  
アジア経済研究所開発研究センター長  
樋田 満

同研究主幹  
野田容助